

## 部落解放研究関係文献目録

(一九八四年一月～三月)

## 【現状】

- 駒井昭雄・谷口武光・萩田哲男・竹尾正巳・中川久司「部落の環境と総合計画」(『部落解放』二〇八号、1月)  
 本多義信・阪本三好・岡山県連婦人部「部落の生活の現状と社会保障」(同右)  
 山下力ほか「部落の労働の現状と仕事保障」(同右)  
 浅野隆広「部落産業の現状と課題」(同右)  
 谷本たかし・羽音豊ほか「農山漁村部落の現状と課題」(同右)  
 ≪特集≫「部落における生活と教育」(『部落』四四〇号、1月)  
 辻多喜雄「保育所づくり運動をとおして」  
 梅田 修「住民の自立と教育―八日市市野口町のとりくみ―  
 八木満喜男「くらしと学力を結ぶ地域教育を―福島地区四教育集会所のとりくみ―  
 西野道子「衛生教育『お母さん教室』九年間をふりかえって―同和地区における保健婦活動―  
 窪田充治「地域をリードする小室の人びと―教師と父母の連

## 帯の記録」

- 寺田政幸「公設・声原総合診療所建設への努力」  
 丹波真理「私の町における反核・平和の運動」  
 杉之原寿一「杉之原寿一・部落問題著作集 第五巻戦後部落の變化の実証研究」(兵庫部落問題研究所、1月)  
 編集部「ルポ農山村部落の『同和』対策はいま―長野県望月町に見る」(『部落解放』二〇九号、2月)

## 【行政】

- (資料)「北九州市同和对策審議会答申」  
 (『同和教育運動』二四号、1月)  
 全国部落解放運動連合会「自由で民主的な啓発活動を」(同右)  
 杉之原寿一「(特集)国民融合の条件づくりをめざす同和行政の課題」(『月刊部落問題』八六号、1月)  
 (資料)「北九州市同和对策審議会答申(上)」(同右)  
 高知県地域改善協会「高知県地域改善協会規程集」(同上、1月)  
 (資料)「北九州市同和对策審議会答申(下)」

## 【運動】

- ≪特集≫「部落解放基本法」制定にむけて(一)  
 (『部落解放』二〇七号、1月)  
 高野真澄「同和对策立法の現点と原点―『部落解放基本法』制定論議に寄せて」  
 磯村英一「人権を基本とする同和对策の展望」  
 美作 修「『特別措置法』制定の過程―『基本法』の成立に向けて」  
 部落解放同盟中央本部「地域改善対策協議会への意見書」  
 上杉佐一郎「(荆冠旗) 強固な団結で、差別撤廃条約批准闘争の先頭に」  
 小森龍邦「綱領前文改正草案の論議を深めるために(上)」(同右)  
 原田伴彦「部落解放研究所十五年の歩み」(同右)  
 中山武敏「現場足跡に押収地下足袋の『破損痕』はない―狭山事件の新鑑定書・補充書」(同右)  
 和田里絵「胸はって生きていきたい―少年の主張全国大会から」(同右)  
 ≪部落解放研究第十七回全国集会報告集≫  
 (『部落解放』二〇八号、1月)  
 小森龍邦「(基調提案) 部落解放運動をめぐる情勢と本研究集会の課題」  
 和島岩吉「(特別アピール) 世界人権宣言35周年を記念した

- (『月刊部落問題』八七号、2月)  
 田上和儀「昭和五十九年度地域改善対策予算をみる」  
 (『部落』四四一号、2月)  
 桜井正志「(動向) 行政・運動団体対応の打ち切り―埼玉県の同和行政の転換」(同右)  
 ハーバード・パッシン、(聞き手) 磯村英一「連載・戦後『同和行政』史を行く―占領行政下の部落問題」  
 (『部落解放』二一一号、3月)  
 部落解放同盟北九州地区協議会「北九州市同和对策審議会答申に関する見解」(同右)  
 (資料)「北九州市同和对策審議会答申」(同右)  
 ≪特集≫「『地対法』の折返し点に立って・その一」  
 (『部落』四四二号、3月)  
 東上高志「『地対法』の折返し点に立って―考えなければならぬ、いくつかのことと」  
 山田幹雄「和歌山県御坊市の同和行政―その課題と苦悩」  
 安川重行「地区改良事業の現況とその問題点―奈良県御所市の場合」  
 山本敦貴「同和事業で窮迫した地方財政の実態―同和地区人□比20%を越す自治体の場合」  
 桜井正志「埼玉県における昭和五十九年度同和行政改革の実態について」(『部落』四四二号、3月)  
 田上和儀「(動向) 行政・確定した一九八四年度地域改善対策予算案」(同右)

とりくみを強めよう」

〈特別報告・世界人権宣言35周年と反差別・人権擁護闘争の課題—人種差別撤廃条約の批准にむけて〉

李 仁夏「在日朝鮮人・韓国人の立場から」

楠 敏雄「障害者解放の立場から」

成田得平「アイヌの立場から」

上江洲久「沖縄県民の立場から」

大野町子「女性解放の立場から」

隅元寅教「部落解放と共同闘争の現状と課題」(同右)

中島敏彦・金一俊彦・吉山日出男・鈴木真奈美「人権と平和の闘争」(同右)

小森龍邦・山上益朗ほか「狭山再審闘争と司法反動との闘い」(同右)

大西正義「差別事件の実態と糾弾闘争」(同右)

友永健三・堀内一・部落解放愛知県共闘会議「基本法制定にむけての闘争」(同右)

藤谷俊雄「一九八四年の展望—退廃とのたたかい—」(『部落』四四〇号、1月)

栃崎博孝「世界人権宣言と部落問題」(同右)

石田真一「『タイム』誌の部落問題記述をめぐって」(同右)

村崎勝利「新しい年の部落解放運動の課題」(『月刊部落問題』八六号、1月)

野間 宏「狭山裁判第96回—異議申立の棄却決定批判②」(『世界』四五八号、1月)

山内康雄「八鹿・朝来『解同』暴力事件—審判決の意義と問題点」(『赤旗評論特集版』三四九号、1月)

部落解放同盟大阪府連合会青年部「青年部の思い出—青年部結成満10周年記念誌」(同上、1月)

八鹿高校差別糾弾闘争事件への差別判決②

(『部落解放』二〇九号、2月)

麻田光広・大西正義・丸尾良昭・直原弘道「(八鹿判決座談会)差別糾弾の闘いはつづく—背景に踏みこんだ判決内容」

部落解放同盟中央本部ほか「八鹿・差別有罪判決への抗議声明」

(資料)「八鹿高校事件など判決の要旨」

編集部「(グラフィア)八鹿・差別有罪判決に怒り」

小森龍邦「綱領前文改正草案の論議を深めるために(下)」(同右)

中島敏彦・中川久司・杉野正幸ほか「第2次青年訪中団座談会・『自立自闘』の国」(同右)

日野範之「第一回全国識字経験交流会開かれる」(同右)

解放新聞社「(グラフィア)第一回全国識字経験交流会」(同右)

狭山中央闘争本部「つくられた告白」(狭山差別裁判一二二二号)(同上、2月)

〈特集〉「東日本の部落解放運動」<sup>83)</sup>

(『東京部落解放研究』三七号、2月)

「第37回部落解放同盟群馬県連大会議案書」

〈特集〉「『八鹿・朝来事件』判決をめぐって」

(『部落』四四二号、2月)

上田誠吉「八鹿高校事件判決と民主主義の課題」

山内康雄「八鹿・朝来暴力事件刑事—審判決を聴いて」

西岡幸利「たたかいは、どこまでも」

中西義雄「真実を解明しない荒石判決」

吉開那津子「心新たに—八鹿高校事件の判決を聞いて」

斎藤喜作「八鹿・朝来事件の控訴審に向けて」

安治川敏明「判決が描いた断面—但馬からの感想」

正木美穂「(傍聴記)判決 その日」

藤波 健「(動向)運動・世界人権宣言三五周年記念の取組みをめぐって」(同右)

川元祥一「明らかにになった自白の架空性とその背景—緊迫している狭山再審」(『新日本文学』四三七号、2月)

土方 鉄「(狭山事件の現況)これでも石川は有罪か—小名木証言と地下足袋の足跡など」(『新地平』一一一号、2月)

鎌元昌弘「再審の最終局面をむかえた狭山裁判(狭山裁判と科学生—その後・1)」(『技術と人間』一一二六号、2月)

部落解放同盟東京都連合会・部落解放第15回都研実行委員会「部落解放第15回東京都研究会討議報告集」(同上、2月)

部落解放同盟兵庫県連合会「八鹿差別弾圧裁判荒石判決の批判と意義」(同上、2月)

「同和对策事業特別措置法」強化改正要求国民運動中央実行委員会「全国のあいつく差別事件へ一九八一・一九八二年版」

「第31回部落解放同盟埼玉県連大会議案書」

「第23回部落解放同盟東京都連大会議案書」

「第11回部落解放同盟栃木県連大会議案書」

「第10回部落解放同盟神奈川県連大会議案書」

「第7回部落解放同盟千葉県連大会議案書」

「第7回部落解放同盟茨城県連大会議案書」

「部落解放同盟新潟県連準備会第2回総会議案書」

「部落解放同盟福島県連結成方針案」

狭山部会「狭山事件の分析(一)埼玉県警の初動捜査にかくされた事実(四)」(『脈動』四号、2月)

北足立北部部落解放研究会「原市集会所学習会と『関西紀行』」(同右)

栃崎博孝「いわゆる『差別用語問題』についての考え方」(『解放の道—理論・政策・資料版』創刊号、2月)

亀田順一「八鹿・朝来暴力事件第一審判決について」(同右)

〈特集〉「八鹿・朝来暴力事件判決」

(『月刊部落問題』八七号、2月)

山内康雄「一審判決の評価について」

橋 謙「九年目の判決に想う」

村崎勝利「続・厳罰こそ人間の尊厳を守る道」

宝野正義「九年間のたたかいの成果」

杉尾敏明「八鹿・朝来暴力事件」

村崎勝利「二十世紀に生きる者の共同の旗—部落解放運動の緊急の課題」(『部落問題—調査と研究』四八号、2月)

〔同上、2月〕  
大賀正行「今年の政治課題と部落解放運動を考える」  
（『解放教育』一七七号、3月）

〔資料〕「八鹿高校差別糾弾闘争―裁判の判決をめぐって」  
（同右）

中山武敏「石川無実は証明されている―狭山裁判の現状と課題」  
（『差別とたたかう文化』十二号、3月）

岩松繁俊「世界人権宣言三十五周年記念講演」差別と戦争」  
（『ながさき部落解放研究』八号、3月）

阿南重幸「反原爆・反差別く被差別部落からの告発」二つの誕生日―中村由一さんの原爆体験」（同右）

村崎勝利「『タイム』誌問題のその後」  
（『部落』四四二号、3月）

堀内金義「（現地報告）と畜場建設反対運動は、部落差別を助長するか―新たな段階を迎えたと畜場建設反対運動」（同右）

野間 宏「狭山裁判（98）―異議申立の棄却決定批判」34」  
（『世界』四六〇号、3月）

湯浅欽史「足跡鑑定の論理をめぐる対決」『狭山裁判と科学』その後・2」（『技術と人間』二七号、3月）

週刊文春編集部「国会で上田卓三議員を締めあげた東力議員は『頭も腕もぶしもスゴイ人』」  
（『週刊文春』二六卷一三三号、3月）

「同和」対策事業特別措置法強化改正要求国民運動中央実行委員会「部落差別の実態を踏まえ、今後の「同和」施策の充実と部落

解放「基本法」制定、「人種差別撤廃条約」批准に関する要請書」（同上、1984年）

【理 論】

渡辺俊雄・大賀正行・東野正明「部落史研究と部落解放理論の諸問題」（『部落解放』二〇八号、1月）

奥山峰夫「第21回部落問題研究者全国集会―分科会報告」『運動・解放理論』／『学校教育』／『社会教育・文化活動』  
（『部落』四四〇号、1月）

日高六郎「現代管理社会と部落差別」『こへる』七三三号、1月）  
今野敏彦「差別への視座」（未来社、1月）

上田一雄「部落の現状」にたいする科学的認識の確立を―部落解放運動理論の原点への回帰」（『部落解放』二〇九号、2月）

奥山峰夫「第21回部落問題研究者全国集会報告②」分科会報告」  
『歴史I』（前近代）／『歴史II』（近代）／『現状・行政』  
（『部落』四四一号、2月）

編集部「部落解放研究文献目録」  
（『部落解放研究』三八号、3月）

馬原鉄男「部落解放理論の課題」  
（『月刊部落問題』八八号、3月）

福岡安則「同質化社会のなかでの差異の意味づけ構造」  
（『現代の理論』一九九号、3月）

【解放教育】

岡田健悟ほか「就学前教育の現状と課題」  
（『部落解放』二〇八号、1月）

石岡隆充・裏井仁志・片岡正美「子どもの実態と学校教育の課題」（同右）

井戸木二英・村越末男ほか「部落の教育実態と教育行政の課題」（同右）

《特集》「中学生の進路問題」①「同和教育運動」二四号、1月）  
木下春雄「高校教育改革の争点」  
伊藤和次・山田 稔「進学率低下の背景・要因ととりくみの課題」

真崎建作「綴喜地方の進路実態調査」  
水谷 昭「進路保障のための今日的課題」  
羽場一仁「桑名・員弁地区における高校格差をなくす学区協定」

萱 栄次・日笠俊男「進路保障と岡山県高校選抜制度」  
中野 功「京都の高校教育制度をめぐる諸問題」  
御坊小学校「長欠・不就学の子どもをなくすために」（同右）

池田孝雄「資料・戦後同和教育史（5）―實善教育・七者共闘・黄色いリボン―動評闘争と歌山の場合」（同右）  
名越弘文・「戸出商事件―最高裁決定まで」（同右）  
窪田充治「高知県の同和教育の動向」（同右）

桑原 律「研究」少年運動と部落子ども会（一）」（同右）  
（資料）「教育・部落問題動向（一九八三・九）一〇」（同右）  
畦地享平「（動向）教育・二〇年の歴史をもつ高校生の部落研活

動―第一九回全国高校生部落問題研究会の教訓と課題」  
（『部落』四四〇号、1月）

東上高志「人間の教育の原像」  
（『月刊どの子も伸びる』八七号、1月）

石田真一「（部落の子どもの記）鹿の子校り」（同右）  
東上高志「いま同和教育から学ぶこと」始めに子どもありき」（同右）

石原芳子・孫春美ほか「（座談会）『同和』保育をめざすもの―親と保母の共同闘争をつくり出そう」  
（『はろいび』二六号、1月）

山中多美男「おやじの子育て日誌―悲しみをこめて」（同右）  
中村拓三「地域に不拔の教育力を（学校改革への50の提言）」  
（『現代教育科学』三二六号、1月）

川向秀武「被差別の子どもの現状を『改革』の基軸に（学校改革への50の提言）」（同右）  
村越末男「平和と人権と国民皆学と（学校改革への50の提言）」（同右）

貝塚市同和教育研究会『第13回一日研修会実践報告集』  
（同上、1月）

大阪府立高等学校同和教育研究会「高校同和教育研究会討議資料 第4回」（同上、1月）

全国部落出身教職員連絡会「全国部落出身教職員連絡会結成総会から」（『部落解放』二〇九号、2月）

細谷義昭「今、小学校での解放教育」『脈動』四号、2月）

大野邦子「いま、学校現場で」(同右)  
 ≪特集≫「自然を子どもたちに」(『解放教育』一七六号、2月)  
 長谷川孝「図書紹介/小沢有作者『部落解放教育論』」(同右)  
 大同啓五「最近の部落の生徒の高校進学率の停滞、もしくは低下傾向をどう考えるのか」

(『解放の道—理論・政策・資料版』創刊号、2月)  
 石田真一「(部落の子ども記)校旗」

(『月刊』の子ども伸びる』八二号、2月)

東上高志「(いま同和教育から学ぶこと)子どもが育つ畑」

(同右)

小曾根隆「(動向)教育・第三回全国同和教育研究大会」

(『部落』四四一号、2月)

中村拓三「解放の学力と授業—その方法と展開」(『解放教育教科書6』(明治図書、2月))

中村拓三「解放の学力と授業—その背景と理論」(『解放教育教科書7』(明治図書、2月))

東上高志「人間権の教育」(『あゆみ教育学叢書14』(あゆみ出版、2月))

大阪市同和教育研究協議会「解放教育の創造九(一九八三年度大阪市同和教育研究大会実践報告集)」(同上、2月)

西郷竹彦「文芸の授業—認識・表現の力を育てる」

(『部落問題研究所』2月)

平塚らいてう著作集編集委員会「平塚らいてう著作集 5 婦人戦線に参加して」(大月書店、2月)

行で学んだもの」

松永幸治・森山良子ほか「(座談会)第四回訪印旅行をふりかえって—反省と課題」

V・T・ラージシエーカル、ラージシエーカル氏来日歓迎準備会訳「ブラーマニズムとの闘い」

V・T・ラージシエーカル、薄井一央訳「インドの不可触民差別と日本の部落差別とは同一の問題である」

ラージシエーカル氏来日歓迎準備会「V・T・ラージシエーカル氏同行日誌」

≪特集≫「つくられる女の子・男の子」

(『はらっぱ』二六号、1月)

喜田村浩ほか「(座談会)本音で話し合おう男女雇用平等法」

(『あいふおーらむ』一九号、1月)

総理府広報室「人権擁護」

(『月刊世論調査』一七六号、1月)

ホルヘ・アンソレーナ、伊徒直子「スラム民衆生活誌」アジア・ラテンアメリカの貧困」(明石書店、1月)

岸田美智子・金満里「私は女」(長征社、1月)

小格治格「島田事件・審判勝利にむけて」(『脈動』四号、2月)

岩崎正芳「Hとの二年間」(同右)

青木孝明「『バンドラの箱』問題その後」(同右)

小笠原亮一「同和教育と朝鮮人教育—特に京都市における」(『こべる』七五号、3月)

≪特集≫「教師が直面していること」

(『解放教育』一七七号、3月)

川向秀武「子ども・親・教師はいまどこへ向かうのか」

内田宜人「おかれて同和教育運動に来た者として」

どいめぐむ「再び『むなつき坂』を越えるために」

高橋峰和「黄色いゼッケンつけるのはしんどいけれど」

村上通哉「『バラにはバラの花は咲くが』パートⅢ」

三岳寛之「私と『同和』教育」

(『ながさき部落解放研究』八号、3月)

本山 修「おいは言いたか—Kに学び、Kとともにわかる」

(同右)

石田真一「(部落の子ども記)写真」

(『月刊』の子ども伸びる』八三号、3月)

東上高志「(いま同和教育から学ぶこと)子どもを育てる地域」

(同右)

### 【人権】

≪特集≫「インドにおける反カースト差別解放運動」

(『部落解放史ふくおか』三一号、1月)

大岡康治「インド反カースト差別運動との真の『連帯』のために」

薄井一央「インド反カースト差別解放運動の現況—訪印旅

江藤善章「上福岡市・教育指針をめぐって」(同右)

三宅一志「貫徹された隔離」(『解放教育』一七六号、2月)

平川了大「頼の子たち」(同右)

山下健次「(世界人権宣言35周年記念・京都のつどい報告)人権はどのように変化・発展してきたか」(『部落』四四一号、2月)

≪特集≫「在日外国人の人権と外国人登録事務」

(『月刊自治研』二九三号、2月)

自治労政局「外国人登録法抜本改正にむけて」

田中 宏「在日外国人の実態とその意味」

(資料)「外国人登録関係資料集」ほか

≪特集1≫「ヨーロッパの反核運動はいま」

(『ヒロシマ・ナガサキの証言』九号、2月)

≪特集2≫「反核ヨーロッパとヒロシマ・ナガサキ」(同右)

≪特集≫「江戸期の朝鮮通信使」

(『季刊三千里』三三三号、2月)

姜 在彦「室町・江戸時代の善隣関係」ほか

石田玲子・尹照子・ヤンソン由美子「国籍法改正をめぐって」

(同右)

日本評論社「女性と法」(法学セミナー増刊・総合特集シリーズ

25) (同上、2月)

寺西輝泰「人権擁護委員の使命と職務の限界(その二)」

(『人権通信』一〇七号、2月)

≪特集≫「世界人権宣言三五周年記念式典及び講演とパネルディスカッション」(同右)

〔資料〕「人権擁護に関する世論調査」(同右)  
法務省人権擁護局「人権侵犯事件の概況―人権広報資料から」

(同右)  
前 圭「奈良県における右傾化の諸動向(Ⅰ)」

(『大阪経済法科大学論集』二二号、2月)

佐々木建「南アフリカ・ポプタツワナ大学訪問記(上)―アパルトヘイトと大学」(『書齋の窓』三三二号、2月)

江尻 進「新世界情報秩序に挑む米国のユネスコ脱退」

(『新聞研究』三九一号、2月)

チカツ美恵子「アジアの中のアイヌ―赤い血は同じ人間の証し」

(『新地平』一一二号、2月)

浅野健一「犯罪報道は変えられるか(連載第2回)―『犯罪者』の実名を書かないスウェーデン」

(『マスコミ市民』一八八号、2月)

石田明ほか「『ザ・デイ・アフター』をみるヒロシマの心」

(『朝日ジャーナル』一三〇七号、2月)

内海洋一「福岡市の売春(その1)」

(『福岡県社会保育短期大学研究紀要』一七号、2月)

大野町子「男女雇用平等法制をめぐる動向とその課題」

(『部落解放研究』三八号、3月)

ナタン・レルナーほか(座談会)「人種差別撤廃条約をめぐる」

(同右)

総理府公報室「総理府『人権擁護に関する世論調査』の結果」

(同右)

安中同胞親睦会「ある被差別部落における在日韓国・朝鮮人実態調査結果と課題」(同右)

(資料)「国連の『差別防止・少数者保護小委員会』におけるM・シュライバー女史の『提起』と日本政府の『回答』」(同右)

《特集》「世界人権宣言二十五周年記念集会」

(『部落解放』二二一号、3月)

アブ・サイド・チャードリ「世界人権宣言の真の実現に向かつて」

ジョージ・モートナー・コフ「世界人権宣言三十五周年と国連の活動」

久保田洋「国連の人権擁護活動と日本の役割」

世界人権宣言35周年中央実行委員会「世界人権宣言三十五周年と今後の課題」

友永健三「世界人権宣言三十五周年を記念したとりくみと今後の課題」

(資料)「国連事務総長のメッセージ―一九八三年十二月十日の人権の日にあたって」

橋本 要ほか(『グラビア』)「世界人権宣言35周年記念集会」

楠原 彰「南アフリカのアパルトヘイトと日本」

(『部落解放』二二一号、3月)

《転換期に直面するらゐ園の内外》

(『解放教育』一七七号、3月)

林 緑峯「思いつくまま」

井藤道子「星塚敬愛園と私」

《特集》「子殺しの現代と過去―生と死の回生」

(『差別とたたかう文化』十二号、3月)

石塚友子「東北における『間引き』の周辺―宮城県・岩手県に取材して」

小林 明「宇宙・ファシズム・宗教―『水子』の思想史」

高安イツ子「管理された性、その解放へ」

(資料)「墮胎罪・優生保護法関係資料」

岩月澄江「妊娠―中絶、その奥にあるもの」

本田 豊「沖縄の被差別民―ニンブチャーとチョンドラー」

青木 悦「見られている私―寿町取材メモ」

《小特集》「世界観としての生と死―アフリカより」(同右)

マジン・クネーネ、高良留美子(訳)「祖先の愛した者たち」

マジシ・クネーネ、竹内泰宏(訳)「アフリカにおける家族と宇宙観―アフリカ思想体系の背景」

竹内泰宏「解説」

田原潜一「新しい思想体系の創造に向けて―クネーネの論文にふれながら」

村上やす子「『悲しみを載けますか』」

G・R・デシムバンデ「インドにおける不可触民の問題―世界人権宣言35周年記念研究交流会での報告」

権宣言35周年記念研究交流会での報告」

(『部落』四四二号、3月)

(資料)「五九年度国の婦人関係予算(案)」

(『月刊婦人展望』三三七号、3月)

《特集》「養護学校義務化から五年」

(『福祉労働』二二二号、3月)

中村祥子「イタリア統合教育六年目の課題―盲児統合教育を中心にして」(同右)

《特集》「自治体の情報公開」(『ジュリスト』八〇九号、3月)

《特集》「今日の家族と法」(『法律時報』六八一号、3月)

《特集》「15年戦争と女性」(『歴史評論』四〇七号、3月)

《特集》「婦人はいま何をなすべきか」

(『社会評論』四七号、3月)

北山六郎「取材される側からみたマスコミ⑧―『人権と報道』を考える」(『放送レポート』六七号、3月)

宮島 喬「現代国家と『相違への権利』―フランスにおける文化的少数者と移民の問題」(『世界』四六〇号、3月)

編集部「資料・紀伊国屋書店雇用差別事件」

(『労働運動研究』一七三号、3月)

国連広報センター「国際青年年(IYY)について」

(『月刊国連』六三巻二号、3月)

高橋 敏「非嫡出子の相続法上の地位(Ⅰ)」

(『比較法制研究』七号、3月)

野村昌弘「外国人登録法の抜本的改正にむけて」

(『月刊社会党』三三四号、3月)

セオドア・H・ホワイト「アメリカ政治にふきつける二つの新風―84大統領選を揺さぶる黒人・女性勢力」

(『朝日ジャーナル』一三〇九号、3月)

佐々木建「南アフリカ・ポプタツワナ大学訪問記(下)―アパルト

トヘイトと大学」(『書齋の窓』三三三号、3月)  
 鎌田 慧「冤罪の闇に目を閉ざした無罪判決! 『財田川事件』再審公判に思う」(『朝日ジャーナル』一三二二号、3月)  
 小田きよ子「へ本からのメッセージ」(『朝日ジャーナル』一三二二号、3月)  
 いづ果たされるか」(『朝日ジャーナル』一三二二号、3月)  
 菅田洋一郎・藤波高「京都府戦後障害児教育小史(Ⅱ)——昭和20年代における京都府障害児教育の復興」

(『京都教育大学教育研究所・所報』三〇号、3月)  
 《特集》「回顧と展望1983—1984」

(『自由と正義』三五卷四号、3月)

再審法改正実行委員会「△委員会活動報告」高揚した状況のもとで—再審法改正の実現をめざす—

女性の権利に関する委員会「△委員会活動報告」男女雇用平等法制定にむけて—

人権擁護委員会「△委員会活動報告」人権擁護活動の多様化・国際化—

日本弁護士連合会「国籍法改正に関する意見書(3) 中間試案公表後の審議に現われた若干の事項について」(同右)

### 【社会啓蒙】

清塚幾太郎・楠木克弘・長尾光章・山本章「隣保館の現状と課題」(『部落解放』二〇八号、1月)

向井 正ほか「差別意識の現状と社会啓蒙の課題」(同右)

長谷川善計「社会啓蒙の課題」(『月刊部落問題』八六号、1月)

### 【文化・思想】

《創る—みんなのでつくる文化のページ》

(『部落解放』二〇七号、1月)

松村継枝「(詩) 部落の母」ほか

寺本 知・安井義隆・部落解放同盟松原支部「部落解放をたたく文化の課題」(『部落解放』二〇八号、1月)

松井久吉・内山一雄ほか「私の生いたちと解放への課題」(同右)

愛知松之助「『差別語』問題と出版・言論・表現の自由」

(『月刊部落問題』八六号、1月)

石飛 仁「三國連太郎の白い道—差別の根源にせまる独自のたたかい」(『新地平』一一〇号、1月)

東郷克美「泉鏡花・差別と禁忌の空間」

(『日本文学』三三卷一号、1月)

用語問題特別取材班「拡大する放送禁句第6弾—『釣りキチ三平』から植物人間まで」(『放送レポート』六六号、1月)

三國連太郎・瀧愁麗「三國連太郎が語る人間観」

(『月刊サーチ』一二二号、1月)

《創る—みんなのでつくる文化のページ》

(『部落解放』二〇九号、2月)

下見千秋「(詩) 私の生きる道」ほか

(文) 川元祥一・(絵) 井上洋介「◎創作・部落の伝承—有明山の笛」(『解放教育』一七六号、2月)

磯村英一「同和問題と地方公務員—同和問題学習の条件」

(『地方自治職員研修』二〇七号、1月)

大阪府知事室広報課「へグラビアくらくがき」

(『おおさかふ』六号、1月)

上田一雄「暮らしのなかの部落問題」(明石書店、1月)

村上博光ほか「社会同和教育のあり方を求めて—社会同和教育交流研究集会報告」(『部落』四四一—四四二号、2月)

磯村英一「同和問題と地方公務員」(第2回)—同和問題の歴史—(『地方自治職員研修』二〇九号、2月)

大阪府同和事業促進協議会「『五郎の証』上映運動推進のために」(同右、2月)

《特集》「差別撤廃と社会啓蒙の課題」

(『部落解放研究』三八号、3月)

横島 章「社会啓蒙のポイント」ほか

佐々木弘「社会啓蒙活動とそのひろがり」

(『解放教育』一七七号、3月)

長野 崇「差別意識はどこから—その歴史および表象に関する一考察」(『ながさき部落解放研究』八号、3月)

佐藤文彦「子どもの願いを地域の願いに—徳島県鴨島町の青少年の人権を守る運動」(『月刊社会教育』三二六号、3月)

仲島隆夫「同和教育と市民啓蒙」

(『京都教育大学教育研究所・所報』三〇号、3月)

磯村英一「同和問題と地方公務員」(第3回)—日本歴史の周辺—

(『地方自治職員研修』二一〇号、3月)

多田留治「古在紫琴(清水豊子)のことなど」

(『部落問題—調査と研究』四八号、2月)

藤井 勝・材木和雄(ききて)「部落問題研究30年—杉之原寿一先生にきく」(『社会学雑誌』創刊号、2月)

石飛 仁「三國連太郎の白い道—差別の根源にせまる独自のたたかい」(『新地平』一一一号、2月)

水上 勉「石よ突け」(『テアトロ』四九二号、2月)  
 《創る—みんなのでつくる文化のページ》

(『部落解放』二一一号、3月)

吉山道子「(詩) 人間」ほか

山路興造「田植をいろうる楽—田楽」

(『こへる』七五号、3月)

太田恭治「解放を伝える—消されるもの甦るもの」

(『解放教育』一七七号、3月)

(文) 川元祥一・(絵) 井上洋介「創作・部落の伝承—ほろびた城下町」(同右)

用語問題特別取材班「拡大する放送禁句第7弾—公認の『エタ』から糾弾の『非人』まで」(『放送レポート』六七号、3月)

池田栄子「寄り道まわり道」(同上、3月)

### 【宗教】

V・T・ラージシニエーカル、大岡康治訳・註、薄井一央解説「日本における部落差別へのヒンドゥー教の影響」

(『部落解放史ふくおか』三二号、1月)

井元麟之「日本仏教と部落差別」(同右)

狩部俊猷「私と差別戒名」(同右)

鳥飼慶陽「(動向) 研究・キリスト教と部落問題の研究—工藤英一氏に聞く」『部落問題研究』75輯) を読んで」

(『部落』四四〇号、1月)

鳥飼慶陽「宗教と部落問題」(『月刊部落問題』八六号、1月)

東 正教「宗教と部落差別について」

(『部落解放』二〇九号、2月)

丹波正史「全解連と宗教者との協力・共同についてどう発展させるか」(『解放の道—理論・政策・資料版』創刊号、2月)

《特集》「人権差別」(『信徒の友』2月号)

小野一郎「今日の日本の中にある差別の実態—部落差別事件の報告から」

東岡山治「私の内なる差別意識と闘って」

日野賢隆「部落と宗教」

(『佐賀部落解放研究所紀要』創刊号、3月)

田中耕一郎「曹洞宗末寺の土地問題」(『部落』四四二号、3月)

【通 史】

栗原 省「部落問題との出会い—人間の血のあたたかき」

(『部落』四四〇号、1月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

〔9〕反共議会制の成立」(同右)

師岡佑行「原田伴彦先生を悼む」(『こへる』七三三号、1月)

本田 豊「狭山の部落史(最終回)」

(『狭山差別裁判』一二二号、2月)

生瀬克己「原田伴彦先生の死を悼む」

(『解放教育』一七六号、2月)

山本尚友「近世政治起源説の成立」(『こへる』七四号、2月)

秋定嘉和「部落史周辺」(同右)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

〔10〕思想弾圧始まる」(『部落』四四一号、2月)

脇田 修「原田伴彦さんを悼む」

(『日本史研究』二五八号、2月)

故原田伴彦先生追悼集実行委員会「故原田伴彦先生をしのぶ」

(同上、2月)

村越末男「故原田伴彦先生を徳ぶ—付・故原田伴彦理事長の業

績と略歴」(『部落解放研究』三八号、3月)

秋定嘉和「部落史周辺」(2)「(『こへる』七五号、3月)

米倉利昭「佐賀県の部落史研究—その対象と方法」

(『佐賀部落解放研究所紀要』創刊号、3月)

三谷秀治「部落問題との出会い—政治の断面で」

(『部落』四四二号、3月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

〔11〕歴史の転換期」(同右)

【近代】

成沢栄寿「部落の生活史1—洋学二題—ある穢多と非人の歴史的

役割」(『部落』四四〇号、1月)

生瀬克己「原田伴彦先生の被差別部落形成論について」

(『こへる』七四号、2月)

調査研究所研究部会歴史(前近代)「(史料解説) 屠者重宝記

(三)「(『部落問題—調査と研究』四八号、2月)

三浦圭一「部落の生活史1—夜の労働」

(『部落』四四一号、2月)

大園隆二郎「諫早家資料日記類にみる元禄元年から五年に至る記

事について」(『佐賀部落解放研究所紀要』創刊号、3月)

大島恒彦「江戸期古地図に現われた被差別部落」(同右)

成富信義「佐志村大庄屋記録—『官事細録』—をめぐって」

(同右)

《近世の被差別部落》(『ながさき部落解放研究』八号、3月)

姫野順一「天領長崎における非人制度の確立と展開」

若木太一「賤が里の伝承—伝・憶良歌『天乙女また釣する

る』」

瀬川貞太郎「部落の生活史20—新百姓仕揃え」

(『部落』四四二号、3月)

【近代】

川向秀武「福岡県融和事業・融和教育関係資料(一)」

(『部落解放史ふくおか』三二号、1月)

徳永高志「明治初年の都市民衆支配—東京府違式註違条例制定前

後」(『歴史評論』四〇五号、1月)

豊中水平社創立60周年豊中市同和事業促進協議会創立30周年記念

事業実行委員会「人間の血は濁れず—豊中水平社創立60周年豊

中市同和創立30周年記念誌」(同上、1月)

丹波正史「真に旧「非人」身分問題は解決したか(後編)—竹本

論文への疑問」(『部落問題—調査と研究』四八号、2月)

人見彰彦「部落史のひとこま」(同右)

事務局(杉山)「(資料紹介) 岡山の水平運動④—倉敷名田火葬

場差別事件」(同右)

後藤正人「明治十年代の小作争議・職人運動と『生存権』—和歌

山県日高郡・和歌山区の自由平権」

(『和歌山大学教育学部紀要(人文科学)』三三集、2月)

上井俊記「三重県下初の融和団体『改業社』設立について(下)」

(『部落解放研究』三八号、3月)

《近代の被差別部落》(『ながさき部落解放研究』八号、3月)

園田尚弘「近代長崎のジャーナリズムにみる被差別部落(続)

—『解放令』から長崎水平社まで—」

増田史郎亮「浦上四番崩れ事件前史—部落民・キリシタン・

神道・仏教者と奉行所との諸関係をめぐって—その一」

金子マリーティン「紡績工業における被差別部落婦人労働試験」

(『比較社会史の諸問題・大野英二先生還暦記念論文集』所収

未来社、3月)